アニコム どうぶつNEWS
2024年1月号

ねこ に多い病気、そこが知りたい!

猫カビって?

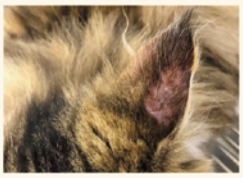
糸状菌というカビの胞子が被毛に付着し、脱毛など皮膚病を引き起こす病気。

猫カビは母子感染が多く、大半が子猫期に発症します。
そして栄養状態がよくなかったり、免疫力が低下したりしていると悪化しやすくなります。

主な初期症状

- 顔周りなどに脱毛がある
- 特定の部位を気にする しぐさが見られる
- 顔の皮膚が赤くなっている など

猫カビ(皮膚糸状菌症)はカビ(真菌)の胞子が被毛や皮膚に付着、増殖し、内部に侵入して発症します。一般的には、この猫カビの菌をもっている猫と接触することで感染。代表的な症状は脱毛で、おもに顔周りの被毛が束になって抜けます。猫によっては、かゆがる様子が見られることも。



猫カビを発症した猫。
耳の外側が脱毛し、
赤いブツブツが見られます。

検査と治療法

動物病院では、真菌に当たると発光する特殊な光を使う検査や、顕微鏡検査や真菌培養検査などで感染の有無を確認。その後、治療を開始します。治療はまず、患部周辺もしくは全身の被毛を刈って、薬用シャンプーで菌を洗い流します。その後、菌の増殖を阻害する抗真菌薬を飲ませ、塗り薬を処方することも。
しかし、抗真菌薬の飲み薬は効果が高いのですが、子猫には体への負担が大きく、副作用が出るという報告も。そのため、生後間もない子猫には、まず薬用シャンプーと、場合によっては塗り薬を使うこともあります。完治までに長い時間を要し、数カ月かかることもあります。

再発防止のために

猫カビは人にうつることもあり、体に紅斑などができ、強いかゆみを生じます。また、感染猫を触った飼い主さんがそのまま菌を家に持ち込み、愛猫が感染してしまうケースもあるので注意が必要です。猫カビの発症時に、猫が使っていた猫ベッドなどのグッズに真菌の胞子が残っていると、再び被毛に付着して、再発するリスクはあります。そのため再発を防ぐには、治療と並行して、住環境の消毒を徹底することも重要。その上で、完全室内飼いの猫ならば、完治後は再発しないでしょう。この病気は真菌の胞子が被毛に付着した猫のすべてが発症するわけではなく、一般的に健康状態のよい成猫が発症することはほとんどありません。ただ、免疫力が低下しているシニア猫や、糖尿病や腎臓病などの基礎疾患がある猫は発症するケースも。猫カビが原因で命を落とすということはないと考えられますが、猫カビを発症している際の猫の体調には注意しましょう。

薬用シャンプーで全身を洗うと、真菌が付着した抜け毛を落とすとともに、住環境に真菌が広がるのを防ぎます。獣医師の指導のもと、自宅で行うことも可能。

雑誌「ねこのきもち」では、健康情報や困りごとなど飼い主さんの「知りたい!」を解決! ●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込むと
2号(2ケ月分)無料!!

発行元:アニコム損害保険株式会社